

ルカの福音書 101回
十字架上のイエス
—罪を赦す救い主—
23:33~49

1. 文脈の確認

(1) イエスの受難 (22~23章)

- ① 宗教的指導者たちの陰謀 (22:1~6)
- ② 過越の食事の準備 (22:7~13)
- ③ 二階の大広間での出来事 (22:14~38)
- ④ イエスの逮捕 (22:39~53)
- ⑤ イエスの裁判 (22:54~23:25)
- ⑥ イエスの死 (23:26~49)
 - * ヴィア・ドロローサ (23:26~32)
 - * 十字架上のイエス (22:33~49)

(2) この箇所は、ルカ独特の記録である。

2. アウトライン

- (1) 敵のための祈り (33~38節)
- (2) 犯罪人たちとの対話 (39~43節)
- (3) 父への自己犠牲の祈り (44~49節)

3. 結論

- (1) イエスの祈り
- (2) イエスの約束

十字架上で罪を赦す救い主の姿について学ぶ。

I. 敵のための祈り (33~38節)

1. 33節

Luk 23:33 「どくろ」と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。
また犯罪人たちを、一人は右に、もう一人は左に十字架につけた。

(1) アラム語の「ゴルゴタ」ではなく、ギリシア語の「クラニオン」を使っている。

- ① 異邦人読者のための配慮である。
- ② 「どくろ」に似ているからではなく、刑場だからこの名が付いている。

(2) イエスの十字架は、真ん中に建てられた。

- ①この出来事の中心にイエスがいる。
- ②イエスは、すべての罪人の近くにおられる。

2. 34節

Luk 23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。

(1) ルカの視点は、旧約聖書の預言の成就ではない。

- ①それは、マタイやヨハネの視点である。
- ②ルカは、イエスが死に瀕しても、罪を赦すメシアであることを示そうとする。

(2) イエスは、自分を殺そうとしている兵士たちのために祈った。

- ①無知のゆえに、イエスを殺そうとしている。
- ②その罪の重さを認識していない。
- ③この祈りによって、神の怒りが鎮められた。

(3) イエスと兵士たちの対比

- ①兵士たちは、イエスの衣を分けるために、くじを引いた。
- ②詩 22 : 18

Psa 22:18 彼らは私の衣服を分け合い／私の衣をくじ引きにします。

3. 35節

Luk 23:35 民衆は立って眺めていた。議員たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ったらよい。」

(1) 民衆は、傍観者であった。

- ①中には、勝利の入城に立ち会った者たちもいたであろう。

(2) 議員たちは、イエスをあざ笑った。

- ①「もし神のキリストで、選ばれた者なら」
*彼らは、イエスの主張を覚えていた。
- ②「自分を救ったらよい」
*肉体的解放と霊的解放

4. 36～38節

Luk 23:36 兵士たちも近くに来て、酸いぶどう酒を差し出し、

Luk 23:37 「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と言ってイエスを嘲った。

Luk 23:38 「これはユダヤ人の王」と書いた札も、イエスの頭の上に掲げてあった。

- (1) 兵士たちもイエスをあざけた。
 - ①彼らは、酸いぶどう酒を差し出した。
 - ②これは、あざけりの行為の一環である。
 - ③「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」
 - ④「これはユダヤ人の王」と書いた札が、イエスの頭の上に掲げてあった。

II. 犯罪人たちとの対話 (39～43 節)

1. 39 節

Luk 23:39 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。

- (1) 2人の犯罪人は、人類の代表である。
 - ①1人は、イエスを拒否して滅びて行く人の代表である。
 - ②もう1人は、イエスを信じて救われる人の代表である。
- (2) 犯罪人の一人は、イエスのメシア性の主張をあざけた。
 - ①キリストなのだから、自分を救い、おれたちを救えと言った。

2. 40～41 節

Luk 23:40 すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

Luk 23:41 おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」

- (1) もう一人の犯罪人は、イエスを信じた。
 - ①心の変化を体験した。
 - ②悪口を言う仲間をたしなめ、神を恐れよと忠告した。
 - ③自分たちは当然の報いを受けていることを認めた。
 - ④この方（イエス）は、悪いことを何もしていないと言った。

2. 42 節

Luk 23:42 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」

- (1) 彼は、イエスに信頼した。

- ①間もなく死のうとしているイエスが、いつか御国の位に着くと信じた。
- ②「御国」とは、キリストが地上に設立する王国である。
- ③彼は、イエスの説教を聞いていたのである。
- ④この宗教的・社会的部外者は、イエスの死、復活、昇天、再臨を信じた。
- ⑤「私を思い出してください」とは、救ってくださいという意味である。

3. 43節

Luk 23:43 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

- (1) イエスは、彼の願いに答えた。

III. 父への自己犠牲の祈り (44~49節)

1. 44~45節

Luk 23:44 さて、時はすでに十二時ごろであった。全地が暗くなり、午後三時まで続いた。

Luk 23:45 太陽は光を失っていた。すると神殿の幕が真ん中から裂けた。

- (1) 全地が暗くなり、午後3時まで続いた。
 - ①この暗闇は、神の裁きの象徴である。
 - ②御子イエスは、父との断絶を経験していた。
- (2) 神殿の幕が真ん中から裂けた。
 - ①誰でもイエスを通して神の臨在に近づけるようになった。

2. 46節

Luk 23:46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

- (1) 「父よ」という呼びかけ
 - ①イエスは、大声で叫ばれた。状況を支配している。
 - ②父との関係が回復した。
- (2) イエスは、自分のいのちを罪の贖いのささげ物として献げた。
 - ①イエスの死は、自発的なものであった。
 - ②イエスの祈りは、多くのユダヤ人が就寝前に献げる祈りである。
 - ③イエスの父への信頼を表明している。

3. 47節

Luk 23:47 百人隊長はこの出来事を見て、神をほめたたえ、「本当にこの方は正しい人であった」と言った。

(1) 百人隊長は、イエスが無罪であることを証言した。

- ①「本当にこの方は正しい人であった」
- ②彼は、神をほめたたえた。

(2) この百人隊長に関する伝承

- ①彼の名前は、「ロンギナス」である。
- ②後にイエスを信じる忠実な信者となった。
- ③伝道し、最後は殉教の死を遂げた。

4. 48～49節

Luk 23:48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、これらの出来事を見て、悲しみのあまり胸をたたきながら帰って行った。

Luk 23:49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた。

(1) 群衆は、この悲劇的出来事を見て、悲しみながら帰って行った。

- ①中には、イエスに好意的な人たちもいた。

(2) イエスについて来ていた者たちは、離れたところで、これらのことを見ていた。

- ①イエスの復活物語への橋渡しの情報である。

結論

1. イエスの祈り

Luk 23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。

(1) 通常は、このタイミングで人は自分の罪を告白する。

- ①しかしイエスは、罪の告白を必要としなかった。

(2) それゆえ、罪人たちのために祈ることができた。

- ①これは、ルカ 19：10 と合致する。

Luk 19:10 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」

(3) この祈りには、弟子訓練の側面もある。

- ①ステパノは、この祈りを祈った。

Act 7:60 そして、ひざまずいて大声で叫んだ。「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」

こう言って、彼は眠りについた。

2. イエスの約束

Luk 23:43 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

(1) 彼は、予想していた以上の祝福を受けた。

①「今日」。長く待つ必要はない。すぐに祝福が与えられる。

②「わたしとともに」。素晴らしいお方が同行してくださる。

*イエスがともにいてくださることが、救いの本質である。

③「パラダイスにいます」。最高の場所が約束された。

*「アブラハムのふところ」

ルカの福音書 102回

イエスの埋葬

23:50~56

1. 文脈の確認

- (1) イエスの埋葬 (23:50~56)
- (2) イエスの復活 (24:1~49)
 - ①復活の出来事 (1~12節)
 - ②エマオ途上にて (13~35節)
 - ③エルサレムの部屋にて (36~49節)
- (3) イエスの昇天 (24:50~53)

2. 注目すべき点

- (1) この箇所は、イエスの死と復活の出来事を結ぶ架け橋である。
- (2) この箇所は、イエスの死を確証している。
- (3) ルカは、アリマタヤのヨセフに光を当てている。

3. アウトライン

- (1) ヨセフの紹介 (50~51節)
- (2) ヨセフの行為 (52~54節)
- (3) ガリラヤの女たち (55~56節)

3. 結論

- (1) 3種類の弟子たち
- (2) 埋葬の神学的意味

イエスの埋葬について学ぶ。

I. ヨセフの紹介 (50~51節)

1. 50~51節

Luk 23:50 さて、ここにヨセフという人がいたが、議員の一人で、善良で正しい人であった。

Luk 23:51 ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた彼は、議員たちの計画や行動には同意していなかった。

- (1) ユダヤ人の指導者全員が、イエスを拒否したわけではない。
 - ①イエスを信じる者たちもいた。
 - ②この情報は、ルカの読者には励ましとなる。

③不信者たちの中で暮らしていても、信仰を保持することは可能である。

(2) ヨセフの紹介

- ①議員の一人(最高法院の議員)
- ②善良で正しい人(イエスが無罪であることを証明している)
- ③金持ち(ルカは、この点は強調していない)

*マタ 27:57

Mat 27:57 夕方になり、アリマタヤ出身で金持ちの、ヨセフという名の人が来た。彼自身もイエスの弟子になっていた。

- ④アリマタヤの出身(エルサレムの北西約35キロにある町)
- ⑤神の国を待ち望んでいた(イエスがメシアであることを信じていた)。
- ⑥最高法院の決定に同意していなかった。
- ⑦彼とニコデモは、裁判の席に呼ばれなかった。

*マコ 14:64

Mar 14:64 あなたがたは、神を冒瀆することばを聞いたのだ。どう考えるか。」すると彼らは全員で、イエスは死に値すると決めた。

II. ヨセフの行為 (52~54節)

1. 52節

Luk 23:52 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。

- (1) 彼は、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。
 - ①ヨセフは、イエスの遺体を手厚く葬り、イエスに敬意を表そうとした。
 - ②これはイエスに対する愛から出た行為である。
- (2) アリマタヤのヨセフにとっては、自分になんの利益もない危険な行為である。
 - ①これがなかったら、ユダヤ人がからだを取り外し、城壁の外に投げていた。
 - ②ピラトは許可を与えた(恩赦)。彼なりのユダヤ人に対する抵抗である。
 - ③埋葬は、時間がないので、大急ぎで行う必要があった。

2. 53節

Luk 23:53 彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。

- (1) ヨセフは、注意深く、敬意を込めて、イエスのからだを扱った。
 - ①亜麻布で包んだ。
 - ②まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。

* ヨセフが自分のために用意していた墓である。

③イザ 53：9 が成就した。

Isa 53:9 彼の墓は、悪者どもとともに、／富む者とともに、その死の時に設けられた。／彼は不法を働かず、／その口に欺きはなかったが。

(2) 福音の三要素

①イエスは、私たちの罪のために死なれた。

②墓に葬られた。

③3日目によみがえられた。

3. 54節

Luk 23:54 この日は備え日で、安息日が始まろうとしていた。

(1) 「備え日」とは、金曜日である。

①日没から安息日が始まる。

②ルカは、異邦人読者のためにこの情報を書いている。

③イエスは午後3時に死んだので、日没までに3時間弱しかない。

III. ガリラヤの女たち (55～56節)

1. 55節

Luk 23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだが見られる様子を見届けた。

(1) ガリラヤの女たちの存在は、復活物語への準備である。

①彼女たちは、ヨセフの後について行き、墓を見届けた。

②イエスのからだが見られる様子を見届けた。

(2) 彼女たちが墓を間違えるはずはない。

①イエスの復活を否定する論には、根拠がない。

2. 56節

Luk 23:56 それから、戻って香料と香油を用意した。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。

(1) 彼女たちは、その日のうちに香料と香油を用意した。

①イエスに、さらなる敬意を払うためである。

(2) 彼女たちは、モーセの律法に従って、翌日の安息日には休んだ。

①18：32～34が成就した。

Luk 18:32 人の子は異邦人に引き渡され、彼らに嘲られ、辱められ、唾をかけられます。

Luk 18:33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

Luk 18:34 弟子たちには、これらのことが何一つ分からなかった。彼らにはこのことばが隠されていて、話されたことが理解できなかった。

②金曜日に死んで葬られ、日曜日に復活した。

結論

1. 3種類の弟子たち

(1) イエスを捨てて逃げた弟子たち。

(2) アリマタヤのヨセフ

①危険を冒した。

②自分の持てる物でイエスに仕えた。

(3) ガリラヤの女たち

①自分にできることを行った。

②復活の最初の目撃者となった。

2. 埋葬の神学的意味

(1) 埋葬は、「福音の三要素」のひとつである。

①埋葬は、イエスの辱めの最後であり、復活のための舞台でもある。

(2) イエスの死は、メシア預言の成就である。

①神は、イエスがメシアであることを証明された。

②「血と水」（ヨハ 19：34）への言及は、肉体的な死の確認である。

(3) 当時、論駁する必要がある異端が存在していた。

①グノーシス主義

・物質と霊の二元論に特徴がある。

・物質は悪であり、霊は善である。

・神の子が肉体を持つはずがない。

②ドケチズム

・イエスが肉体を持っていたことを否定する説

・イエスの人間としての歩み（死も）は、人間の目にそう見えただけである。

(4) イエスは、死んで葬られる私たち信者と一体になってくださった。

①それゆえ、イエスの復活は私たちの体験ともなるのである。

ルカの福音書 103回
復活の出来事
—ガリラヤの女たちの証言—
24：1～12

1. 文脈の確認

- (1) イエスの埋葬 (23：50～56)
- (2) イエスの復活 (24：1～49)
 - ①復活の出来事 (1～12節)
 - ②エマオ途上にて (13～35節)
 - ③エルサレムの部屋にて (36～49節)
- (3) イエスの昇天 (24：50～53)

2. 注目すべき点

- (1) イエスの復活は、それを目撃した証人がいる。
- (2) 彼らは、イエスの死を目撃し、落胆した。
- (3) 彼らは、イエスの復活を目撃し、喜びに満たされた。
- (4) 本書は喜びで始まり (1～2章)、喜びで終わる (24章)。
- (5) ルカ24章と使1章は、内容が重複する。
 - ①ルカの福音書は、イエスの物語である。
 - ②使徒の働きは、イエスの証人たちの物語である。
 - ③ルカは、2つの物語の連続性を強調している。

3. アウトライン

- (1) 墓を訪問する女たち (1～4節)
- (2) イエスの復活を告げる天使たち (5～8節)
- (3) 女たちの証言を信じない使徒たち (9～12節)

3. 結論

- (1) 証人の連鎖
- (2) 使1：8

イエスの復活について学ぶ。

I. 墓を訪問する女たち (1～4節)

1. 1～2節

Luk 24:1 週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。

Luk 24:2 見ると、石が墓からわきに転がされていた。

(1) 前回の箇所の確認

①23：55～56

Luk 23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだが見られる様子を見届けた。

Luk 23:56 それから、戻って香料と香油を用意した。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。

②彼女たちは、ヨセフの後について行き、墓を見届けた。

③彼女たちが墓を間違えるはずはない。

④週の初めの日になると、彼女たちは行動を開始した。

(2) 女たちは別々に墓に来たようである。

①ヨハ 20：1によれば、マグダラのマリアが先にひとりで墓に来ている。

Joh 20:1 さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。

②彼女は墓が空になっているのを見た。

③彼女は、イエスの体が盗まれたと思い込んで、行動を開始する。

④墓の中を確かめることをしなかったし、天使を見ることもなかった。

⑥すぐにペテロとヨハネに報告に行った。

(3) 第2の女たちのグループが墓に着いた。

①「明け方」には、象徴的意味がある。

* 人類の歴史の新しい幕が開く。

②イエスの遺体に塗るための香料を持って来た。

③マコ 16：3

Mar 16:3 彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。

④着いてみると、墓から石が取りのけられているのを見た。

2. 3～4節

Luk 24:3 そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。

Luk 24:4 そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。

(1) 彼女たちは墓の中に入った。

①そこには主イエスのからだはなかった。

*主イエス(キュリオス)という用語が登場する。

*復活のイエスは、キュリオスとられた。

*使4:33

Act 4:33 使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。

②彼女たちは途方にくれた(戸惑った)。

(2) そこに天使が現れた。

①まばゆいばかりの衣を着た人が二人

*天使が男の姿で現れた。

*二人の証言は信頼できる。

②マコ16:5では、天使は一人である。

③これは矛盾ではない。二人の天使が現れたが、主に一人が話したのである。

II. イエスの復活を告げる天使たち(5~8節)

1. 5~6節

Luk 24:5 彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。」

Luk 24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。

(1) 彼女たちは、地面に顔を伏せた。

①天使を見て恐れを覚えるのは、ユダヤ人として自然の感情である。

②つまり、二人の男を神の使いと認識したのである。

(2) 天使が語りかけた。

①「どうして生きている方を死人の中に捜すのですか」

②イエスは復活された。

③ガリラヤにいたころ、イエスは預言しておられた。

*9:22、43~45、18:31~33

④当時は、誰もイエスの預言の意味を理解できなかった。

⑤今や、その預言が新しい意味をもって迫ってくる。

2. 7~8節

Luk 24:7 人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえる

と言われたでしょう。」

Luk 24:8 彼女たちはイエスのことばを思い出した。

- (1) 天使が、イエスの預言の意味を解き明かした。
「人の子は必ず罪人たちの手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活する」
 - ①「必ず」は「must」(ギリシア語のデイ)である。
 - ②イエスの死と復活には、神学的な必然性がある。
 - ③人類の救いのためには、これが起こらなければならない。

- (2) 女たちは、ついに、イエスが語った復活の預言を思い出した。
 - ①彼女たちも、使徒たちと同じように復活の預言を忘れていた。

III. 女たちの証言を信じない使徒たち (9~12節)

1. 9節

Luk 24:9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。

- (1) 女たちは、最初の復活の証人となった。
 - ①イエスに対する愛と献身が、この祝福をもたらした。
 - ②女たちが最初の目撃者であることも、復活を証明する有力な証拠である。

2. 10~11節

Luk 24:10 それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、

Luk 24:11 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。

- (1) ここでようやく、女たちの名前が紹介される。
 - ①復活に焦点を合わせるために、意図的に名前が伏せられていた。
 - ②サロメの名が出ていない。
* イエスの母マリアの姉妹で、ゼベダイの子たち(ヤコブとヨハネ)の母

- (2) 使徒たちは、彼女たちを信じなかった。
 - ①訳文の比較
「この話はたわごとのように思えたので、」(新改訳2017)
「この話がまるで馬鹿げたことに思われて、」(共同訳)
 - ②復活を信じなかった最初の人は、使徒たちである。

3. 12節

Luk 24:12 しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。

- (1) ペテロは、女たちの証言を確かめるために、走って墓に行った。
 - ①同時に、ヨハネも走ったが（ヨハ 20：6～7）、ルカはそれを省略している。
 - * ペテロを使徒集団のリーダーとして位置づけている。
 - ②かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。
 - * アリマタヤのヨセフがイエスの遺体をくるんで亜麻布である。

- (2) ペテロは、「この出来事に驚きながら自分のところに帰った」。
 - ①「驚きながら」とは、まだ復活を理解していないということである。
 - ②彼は、復活を信じていないが、それを否定しているわけでもない。
 - ③ペテロのこの反応も、復活を証明する強力な証拠である。

結論

1. 証人の連鎖

- (1) 神から天使たちへ
- (2) 天使たちから女たちへ
- (3) 女たちから使徒たちへ
 - ①使徒とは、メッセージを伝える人であるが、まだその準備ができていない。
 - ②復活のイエスに会うことによって、確信が与えられた。
- (4) 使徒たちから地の果てへ

2. 使1：8

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

- (1) 宣教の歴史は、イエスの復活から始まった。
- (2) 私たちも、証人の連鎖に加えられている。

ルカの福音書 104回
エマオ途上にて
—旧約聖書からの解説—
24：13～35

1. 文脈の確認

- (1) イエスの埋葬（23：50～56）
- (2) イエスの復活（24：1～49）
 - ①復活の出来事（1～12節）
 - ②エマオ途上にて（13～35節）
 - ③エルサレムの部屋にて（36～49節）
- (3) イエスの昇天（24：50～53）

2. 注目すべき点

- (1) 「エマオ途上にて」と「エルサレムの部屋にて」には同じ強調点がある。
- (2) 霊的な盲目状態は、聖書の解き明かしによって解決する。

3. アウトライン

- (1) 霊的な盲目状態（13～24節）
- (2) 旧約聖書の解説（25～29節）
- (3) 霊的な開眼（30～35節）

4. 結論：神の摂理

- (1) ペテロへの現れ
- (2) クレオパへの現れ

エマオ途上の出来事について学ぶ。

I. 霊的な盲目状態（13～24節）

1. 13～14節

Luk 24:13 ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタデ
イオン余り離れた、エマオという村に向かっていた。

Luk 24:14 彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。

- (1) 「ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が」
 - ①時間は、日曜日の午後である。
 - ②弟子たちのうちの二人が、エルサレムからエマオに向かっていた。

- ③一人はクレオパ（18節）で、もうひとりは無名の弟子である。
*ビザンチン時代の初期の伝承では、無名の弟子はルカだとされる。
- ④エマオは、エルサレムの北西約60スタディオ（11km）にある村。
*エマオは、温泉という意味。
- ⑤エルサレムを離れる理由は書かれていないが、想像はできる。
*彼らは、イエスの死を悲しみ、失望していた。

(2)「これらの出来事すべてについて話し合っていた」

- ①話の内容は、イエスの死、埋葬、空になった墓である。
*彼らは、困惑していた。
- ②動詞は、未完了形である。継続した動作。

2. 15～16節

Luk 24:15 話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。

Luk 24:16 しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。

- (1)「イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた」
 - ①イエスから近づき、彼らとともに歩き始めた。動詞は、未完了形である。
 - ②旅の途中で知らない人が会話に加わることは、ユダヤ人には普通のこと。
 - ③過越の祭りを祝った巡礼者が帰路につく場合は、特にそう言える。
- (2)「二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった」
 - ①なぜイエスだと分からなかったのか。
 - ②思い込み、悲しみ、聖書理解の不足などが考えられる。
 - ③マグダラのマリアも、最初はイエスを認識できなかった（マコ16:9～11）。

1. 17～18節

Luk 24:17 イエスは彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。

Luk 24:18 そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」

- (1)「歩きながら語り合っているその話は何のことですか」
 - ①イエスは、知らないから質問しているわけではない。
 - ②彼らの信仰を喚起するための会話を始めているのである。

(2) 「すると、二人は暗い顔をして立ち止まった」

- ① 悲しみの反応。暗い顔をした。
- ② 驚きの反応。立ち止まった。

(3) クレオパのことば

- ① ルカは、クレオパを知っている人がいることを予想して書いている。
- ② エルサレムにいたなら、誰でも知っている話を、あなただけが知らないのか。
- ③ イエスの活動と死は、エルサレム中に知れ渡っていたのである。

* 過越の祭りの最中に十字架刑が執行された。

2. 19～21 節 a

Luk 24:19 イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。

Luk 24:20 それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。

Luk 24:21a 私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。

(1) 「どんなことですか」という質問に対して、二人は答えた。

- ① 自分たちが信じていたことと、実際の出来事が合致しないので、当惑している。
- ② 彼らのことばは、弟子集団の思いを代弁している。

(2) 彼らが信じていた4つのこと

- ① イエスは神の預言者であった。
- ② イエスが預言者であることは、その教えと行いによって証明された。
- ③ 指導者たちは、イエスを死刑にするために引き渡し、十字架につけた。
- ④ 自分たちは、イエスこそメシア（政治的解放者）だ、と望みをかけていた。

3. 21b～24 節

Luk 24:21b 実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、

Luk 24:22 仲間の女たちの何人かが、私たちに驚かせました。彼女たちは朝早く墓に行きましたが、

Luk 24:23 イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、彼らはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。

Luk 24:24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

(1) 次に彼らは、イエスが復活したという知らせについても話した。

- ①彼らは、イエスが復活したということを、まだ信じていない。
 - ②「三日目になる」は、十字架刑が金曜日に行われたことを証明している。
 - ③イエスの墓は、女たちの言ったとおりに空になっていた。
- (2) イエスは、彼らが心の中にあることをすべて吐き出すまで黙って聞いている。
- ①試練の中にいる人の話を聞く際に、大いに参考になる。

II. 旧約聖書からの解説 (25～29 節)

1. 25～27 節

Luk 24:25 そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。

Luk 24:26 キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのではありませんか。」

Luk 24:27 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。

(1) 「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち」

- ①イエスは、彼らを優しく戒めた。
- ②「愚か者」とは、聖書の影響を受けることを拒否する人である。
- ③預言者たちは、メシアの受難と復活を預言していた。

(2) 「モーセやすべての預言者たち」

- ①「モーセ」とは「モーセの五書」のこと。本来は1冊の書である。
- ②「預言者たち」とは、預言書のことである。
- ③これ全体で、旧約聖書を指す。
- ④旧約聖書はメシアを指し示している。

* 申 18 : 15～18

* 詩 22 篇

* イザ 9 : 1～21、11 : 1～16、53 : 1～12

- ⑤これは、イエスによるバイブルスタディである。
 - * イエスは、両手の釘の跡を見せるのではなく、聖書を解説した。
- ⑥その解説を聞きたいと思うが、私たちには新約聖書と聖霊の助けがある。

(3) 旧約聖書の重要性

- ①初代教会の時代、伝道は旧約聖書を用いて行われた。

- ②初代教会は、新約聖書が書かれる前に活動を開始していた。
- ③今でも、ユダヤ人伝道は、旧約聖書を用いて行われる。

2. 28～29節

Luk 24:28 彼らは目的の村の近くに来たが、イエスはもっと先まで行きそうな様子であった。

Luk 24:29 彼らが、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もすでに傾いています」と言って強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた。

(1) エマオに近づいたが、イエスはまだ先に行きそうな様子であった。

- ①イエスは、招かれない限り無理に家に入ることはない。
- ②家を心と置き換えても同じことが言える。

(2) 彼らはイエスを強いて引き止めた（強く勧めた）。

- ①そろそろ夕刻になる。旅は危険である。
- ②空腹になって来た。
- ③食事と宿が用意されている。
- ④イエスは、彼らの招きに応じて家に入った。

III. 霊的な開眼 (30～35節)

1. 30～31節

Luk 24:30 そして彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。

Luk 24:31 すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

(1) イエスは、主人の役割を果たしておられる。

- ①パンを取って神の御名を祝福した。
- ②裂いて彼らに渡した。

(2) 彼らの目が開かれて、イエスだとわかった。

- ①パンを裂くしぐさ
*5000人のパンの奇跡
- ②イエスの両手に釘の跡を見たのであろう。
- ③その瞬間、イエスは見えなくなった。
- ④イエスの体が、新しい次元の体であることを示している。

2. 32節

Luk 24:32 二人は話し合った。「道々お話しくくださる間、私たちに聖書を説き明かしてください」

る間、私たちの心は内で燃えていたではないか。」

(1) 「私たちの心は内で燃えていたではないか」

- ① 聖書の学びこそ、魂に感動をもたらすものである。
- ② 福音を理解した人は、心のうちに燃えるものを感じる。
- ③ 心が燃えるとは、神のことばに同意し、いのちを受けている状態である。

3. 33～35 節

Luk 24:33 二人はただちに立ち上がり、エルサレムに戻った。すると、十一人とその仲間が集まって、

Luk 24:34 「本当に主はよみがえって、シモンに姿を現された」と話していた。

Luk 24:35 そこで二人も、道中で起こったことや、パンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を話した。

(1) 彼らはすぐにエルサレムに戻った。

- ① 「十一人」とは、ユダを除いた使徒たちのことである。トマスはいなかった。
- ② 彼らは、復活のイエスがシモン（ペテロ）に現れたと話していた。
- ③ そこで二人も、自分たちの体験に基づいてイエスの復活を証言した。

(2) 「パンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を話した」

- ① 聖餐式のときには、この聖句を思い出そう。

結論：神の摂理

1. ペテロへの現れ

- (1) 使徒集団で、最初に復活のイエスを見たのはペテロであった。
- (2) ペテロは、赦しと励ましを必要としていた。
- (3) ペテロが初代教会のリーダーとなることを弟子集団が認識する必要があった。

2. クレオパへの現れ

- (1) クレオパは、初代教会で有名な指導者となった。
 - ① 伝承では、彼はイエスの叔父である（ヨセフの兄弟）。
- (2) クレオパは、後にエルサレム教会の指導者の1人となった。
 - ① 紀元66年、ティトウスは、エルサレムからローマに帰還し、皇帝となった。
 - ② その間、弟子たちはイエスの預言に従ってエルサレムから逃れた。
 - ③ 紀元70年、エルサレムは陥落したが、弟子たちは死を免れた。
 - ④ このとき、弟子たちを導いたのはクレオパであった。

ルカの福音書 105回
エルサレムの部屋にて 一旧約聖書からの解説—
24:36~49

1. 文脈の確認

- (1) イエスの埋葬 (23:50~56)
- (2) イエスの復活 (24:1~49)
 - ①復活の出来事 (1~12節)
 - ②エマオ途上にて (13~35節)
 - ③エルサレムの部屋にて (36~49節)
- (3) イエスの昇天 (24:50~53)

2. 注目すべき点

- (1) 「エマオ途上にて」と「エルサレムの部屋にて」とには、同じ強調点がある。
- (2) 霊的な盲目状態は、聖書の解き明かしによって解決する。

3. アウトライン

- (1) 霊的な盲目状態 (36~38節)
- (2) 復活の証明 (39~43節)
- (3) 聖書の解き明かし (44~49節)

4. 結論：復活のイエスを目撃した人たち

弟子たちの経験について学ぶ。

I. 霊的な盲目状態 (36~38節)

1. 36~37節

Luk 24:36 これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

Luk 24:37 彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。

- (1) エマオで姿を現したイエスは、突如いなくなった。

①24:31

Luk 24:31 すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

- ②エルサレムの部屋では、突如姿を現した。

- (2) 彼らは、おびえて震え上がった。

- ①幽霊を見ているのだと思った。
*ギリシア語の「プニューマ」(霊)である。
- ②肉体のない存在

(3) ヨハ 20:19 の情報

Joh 20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

- ①イエスの復活の体は、多次元の体である。
- ②11人の使徒集団(トマスはいない)が、イエスの復活の目撃者となった。
- ③ルカ2章では、イエスはマリアの子であり、同時に神の子である。
- ④エマオ途上の物語では、イエスの神性が強調されている。
- ⑤エルサレムの部屋の物語では、イエスの人間性が強調されている。
- ⑥イエスは、100%人間であり、100%神である。このバランスが重要である。

2. 38節

Luk 24:38 そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。」

- (1) 弟子たちは、それがイエスだと気づくべきであった。
 - ①彼らは、イエスが復活することを期待していなかった。
 - ②イエスの復活を期待していたので、幻を見たという説には、説得力がない。

II. 復活の証明(39~43節)

1. 39~40節

Luk 24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」

Luk 24:40 こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

- (1) 誰でも、自分が生きていることを示すためには、手や足を見せればよい。
 - ①イエスは、自分にさわるように促した。
 - ②肉や骨があるのは、幽霊ではなく、肉体を持った人であることの証拠である。
 - ③イエスは、彼らに手と足を見せた。
*両手には釘の跡があるので、すぐにイエスだと分かる。

2. 41~43節

Luk 24:41 彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに

何か食べ物がありますか」と言われた。

Luk 24:42 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、

Luk 24:43 イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。

(1) 弟子たちは、まだ信じられず、不思議がっていた。

①話がうま過ぎて、信じられない。

(2) イエスは、復活のさらなる証拠を示した。

①イエスは焼いた魚を一切れ食べた。

②これは、復活の体が食事によって支えられているということではない。

③復活の体は、朽ちることのない、栄光の体である。

III. 聖書の解き明かし (44~49 節)

1. 44 節

Luk 24:44 そしてイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたと一緒にいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについて、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」

(1) イエスによる聖書の解き明かし

①「モーセの律法と預言者たちの書と詩篇」とは、旧約聖書のことである。

②旧約聖書のメシア預言は、すべて成就しなければならない。

*ギリシア語の「デイ」。神の視点から見た必然性。

2. 45~48

Luk 24:45 それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

Luk 24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

Luk 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、

Luk 24:48 あなたがたは、これらのことの証人となります。

(1) イエスは何度も受難の預言を語ったが、弟子たちは信じなかった。

①ここでイエスは、彼らの心を開いた。

②その方法は、メシア預言の解き明かしである。

(2) イエスによる解説

①キリストは苦しみを受ける。

②三日目に死人の中からよみがえる。

③全人類に、福音が伝えられる。

④それは、エルサレムから始まる。

*イザ2:2~3、42:6、49:6、60:3

*ヨエ2:28~29、32、ミカ4:1~2

⑤弟子たちは、「これらのこと」証人となる。

*「これらのこと」とは、イエスがメシア預言を成就したこと。

(3) 異邦人伝道は、ルカの福音書の重要なテーマである。

①当時のユダヤ人たちは、その考え方に反発していた。

3. 49節

Luk 24:49 見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

(1) イエスは弟子たちに、聖霊を与えることを約束した。

①聖霊の傾注も、旧約聖書に預言されていた。

*イザ32:15、44:3、エゼ39:29、ヨエ2:28~29

*ヨハ14:16~17

(2) 聖霊の傾注があるまで、弟子たちは都にとどまっていなければならない。

①この命令は、使徒の働きへの「つなぎ」となっている。

②使1:8

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

結論：復活のイエスを目撃した人たち

①マグダラのマリア (マコ 16:9~11)

②ガリラヤの女たち (マタ 28:8~10)

③エマオ途上の2人の弟子たち (ルカ 24:13~32)

④ペテロ (ルカ 24:34)

⑤トマスを除いた使徒たち (ヨハ 20:19~25)

⑥トマスを含めた使徒たち (ヨハ 20:26~31)

⑦ガリラヤ湖畔の7人の弟子たち (ヨハ 21章)

⑧500人以上の信者たち (1コリ 15:7)

⑨ヤコブ (1コリ 15:7)

⑩オリーブ山の使徒たち (使 1:3~12)

ルカの福音書 106回

イエスの昇天

24：50～53、使1：3～12

1. 文脈の確認

- (1) イエスの埋葬 (23：50～56)
- (2) イエスの復活 (24：1～49)
- (3) イエスの昇天 (24：50～53)

2. 注目すべき点

- (1) ルカは、イエスの昇天を予見していた (9：51)。

Luk 9:51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころのことであった。イエスは御顔をエルサレムに向け、毅然として進んで行かれた。

- (2) メシアの奉仕の最終ゴールは、昇天である。
- (3) ユダヤ人たちがイエスを信じた場合でも、死、埋葬、復活、昇天はあった。
- (4) 新約聖書の記者の中で、昇天を記録しているのはルカだけである。
- (5) 旧約聖書には、栄光に満ちたメシア再臨の預言がたくさんある。
- (6) ルカの福音書では、昇天はイエスの物語の終りである。
- (7) 使徒の働きでは、昇天は教会の物語の始まりである。

3. アウトライン

- (1) イエスの物語の終り (50～53 節)
- (2) 教会の物語の始まり (使1：3～12)

4. 結論

- (1) 昇天の意義
- (2) 再臨の希望

イエスの昇天について学ぶ。

I. イエスの物語の終り (50～53 節)

1. 50～51 節

Luk 24:50 それからイエスは、弟子たちをベタニアの近くまで連れて行き、手を上げて祝福された。

Luk 24:51 そして、祝福しながら彼らから離れて行き、天に上げられた。

- (1) イエスが昇天した場所は、オリーブ山ではない。

- ①オリーブ山の東山麓にあるベタニア村の近くである。
- ②イエスは、弟子たちをそこに導いた。
- ③このことは、復活から40日後に起こった。

(2) イエスの3つの役割

①祭司

- *手を上げて弟子たちを祝福した。
- *手を上げるのは、天にある祝福を地上に住む人たちにもたらず行為である。

②預言者

- *イエスの昇天は、預言者エリヤの昇天に似ている(2列2:11)。

③王

- *イエスは、王として地上に再臨される。

2. 52~53節

Luk 24:52 彼らはイエスを礼拝した後、大きな喜びとともにエルサレムに帰り、

Luk 24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

- (1) 弟子たちは、イエスを礼拝した。
 - ①ルカは、ここで初めて、弟子たちがイエスを礼拝したと記録している。
 - ②死、埋葬、復活、昇天を目撃した弟子たちは、イエスの神性を確信した。

- (2) 彼らは、大きな喜びとともにエルサレムに帰った。
 - ①ついに彼らは、メシアの役割と、神の人類救済計画を理解した。
 - ②この福音書は、喜びで始まり、喜びで終わる。

- (3) 彼らは、いつも宮にいて神をほめたたえていた。
 - ①祈りの家でいつも神をほめたたえていた理由は、福音を理解したからである。

II. 教会の物語の始まり(使1:3~12)

1. 3節

Act 1:3 イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。

- (1) イエスの教えは、昇天のときまで続いた。
 - ①40日の間とは、復活から昇天までの期間である。

- (2) イエスが教えたことのも中心テーマは、「神の国」である。

- ①「神の国」のプログラムについての教えである。
- ②メシアによる「メシア的王国」の提供はユダヤ人たちによって拒否された。
- ③「メシア的王国」は延期され、「奥義としての王国」に置き代わった。
 - *教会時代とほぼ同義である。
 - *キリスト教界を指すことばである。

2. 4～5節

Act 1:4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」

Act 1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」

(1) イエスの最後の命令

- ①「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい」
- ②ヨハネによる水のバプテスマと聖霊によるバプテスマが対比されている。

(2) 聖霊によるバプテスマ

- ①聖霊は、信者をキリストの教会につなげる働きをする。
- ②1コリ 12:13

1Co 12:13 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

- ③これは、教会時代における聖霊の特別な働きである。
- ④また聖霊は、キリストの命令を実行するための力を信者に与える。

3. 6～7節

Act 1:6 そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」

Act 1:7 イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。」

(1) 弟子たちは、メシア的王国の実現に興味を示している。

- ①メシア的王国は千年王国とも呼ばれる。
- ②聖霊が注がれるという約束を聞いた弟子たちは、メシア的王国が近いと感じた。
- ③イエスは、地上に文字通りの王国が成就することは否定していない。

(2) イエスは、いつとか、どんなときとかいうことは、知らなくてよいと言われた。

- ①父がご自身の権威をもって定めておられる。

②携挙や再臨の時に予告することは、イエスのことばに反している。

4. 8節

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

(1) 聖霊の力を受けたとき、弟子たちの宣教は地理的に拡大して行く。

- ①エルサレム
- ②ユダヤ
- ③サマリア
- ④地の果て（異邦人世界のこと）

* イザ 49：5～6では、「地の果て」が異邦人世界を指している。

5. 9節

Act 1:9 こう言ってから、イエスは使徒たちが見ている間に上げられた。そして雲がイエスを包み、彼らの目には見えなくなった。

(1) ルカ 24：50によれば、その場所はベタニアである。

- ①イエスは、シャカイナグローリーとともに天に昇られた。
- ②預言者エリヤの昇天と似ている。

2. 10～11節

Act 1:10 イエスが上って行かれるとき、使徒たちは天を見つめていた。すると見よ、白い衣を着た二人の人が、彼らのそばに立っていた。

Act 1:11 そしてこう言った。「ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」

(1) 弟子たちは天を見つめていた。

- ①驚き、礼拝、悲しみの感情

(2) 白い衣を着た二人の人

- ①天使である。墓で現れた天使の可能性が高い（ルカ 24：4）。
- ②弟子たちに慰めのことばを語った。
- ③イエスの再臨を予告した。

3. 12節

Act 1:12 そこで、使徒たちはオリブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレム

に近く、安息日に歩くことが許される道のりのところにあった。

(1) 彼らは、オリーブ山からエルサレムに帰った。

- ①距離は近い。
- ②「安息日の道のり」とは、約900m。
- ③父の約束を待つためである。

(2) ルカ 24：52～53 の再確認

Luk 24:52 彼らはイエスを礼拝した後、大きな喜びとともにエルサレムに帰り、

Luk 24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

結論

1. 昇天の意義

(1) 昇天によって、イエスの地上での奉仕は完了した。

①ヨハ 14：28

(2) イエスは、父なる神の右の座に座された。

①使 2：32～35

(3) イエスは、天において大祭司としての働きを開始された。

①ヘブ 4：14～16

(4) イエスの地上での働きは、弟子たちの手に委ねられた。

①使 1：8

(5) 聖霊降臨の条件が整った。

①エペ 4：8～10

2. 再臨の希望

(1) イエスはオリーブ山から昇天された。

①イエスはオリーブ山に立たれる（ゼカ 14：4）。

(2) イエスは肉体をもって昇天された。

①イエスは肉体をもって戻って来られる（マラ 3：1）。

(3) イエスは目に見える形で昇天された。

①イエスは目に見える形で戻って来られる（マタ 24：30）。

(4) イエスは雲に包まれて昇天された。

①イエスは天の雲に乗って戻って来られる（マタ 24：30）

(5) イエスは栄光に包まれて昇天された。

①イエスは栄光を帯びて戻って来られる（マタ 24：30）。